

月、土曜日まで15回の稽古日数がありますが、土曜日の午後から日曜日は稽古は組み込まれておらず家族サービスで宗教上の形とはいえ生活を楽しんでいきます。

18...00...19...30 一般20...00
 21...30
 火...一般12...30...14...00 基礎
 20...00...21...00
 水...一般7...00...8...30 中級18...
 00...19...00 一般20...00
 木...一般12...00...14...00 ジュニア
 18...00...19...30 一般20...00
 21...30
 金...一般7...00...8...30 一般19...
 00...20...30
 土...中級9...30...10...30 一般11...
 00...13...00
 日...休日

合気道を稽古している会員は富裕層が多くしかも夫婦で楽しまれているようです。今回のセミナーはチリ、近隣のペルー、ウルガイ、遠くカナダ、オーストラリアから参加があり国際交流となりました。オープンセミナー会場のエスタディオオカルフォ体育館で2日間にわたり1000余人を超える参加者のもと、武田義信師範八段の英語による説明をスペイン語に翻訳するという形式で合気道の自然の気の流れの基本を個々に又はチームをくみ稽古し心身一如の動きを体感し合気道の醍醐味を味わいながら楽しい稽古となりました。

2日目の後半 昇級、昇段の審査があり日本で行われる審査と同じAKI合気道武道道場と同じ方式でしたが、稽古量の多さで基本がしっかりしたスタミナも充分あり日本で行われるものよりかなり各級、各段にかなうレベル以上の披露でした。チリ、ペルー等の指導者と手合わせしました。チリ合気道合宿が決まり約1年間、週4回をノルマに東戸塚道場で稽古したおかげでスタミナを含め(何故 白髪の70歳近い老人が元氣よく動き回るの?)合気道の良さを伝えることができたのではないかと思います。

白山道場の稽古の合間にサンチャゴ市内観光でのエピソードを!

室内師範と二人で地下鉄を利用し首都サンチャゴを一望できる標高288mのサン・クリストパルの丘にケーブル鉄道で上りマリア像の展望台からサンチャゴ市内を360度眺望し、黄金の輝くサンセットを見て(おまけに南国情熱のアベックカッパルのキツシーンもみせていただき)下山しようとした時、午後8時、ケーブル鉄道駅に行くこと最終下山時間は7時で乗り遅れ(普通はサセットに合わせた最終下山時間が常識です)サスガ南国!歩いて降りたことになり下山道路を夜景を見ながら歩き始めたが結構距離があり近道をしてケーブル鉄道の点検用の急階段(階段幅は足幅だけで滑りやすく危険なもの)300m利用しマサカの命かけての冒険の下山でした。

白山道場の朝夕の稽古、オープンセミナーが無事終了し、白山道場のマニュエル氏ら夫妻のご好意で3台の車でサンチャゴから海岸線を470キロ北上しラ・セレナ(スペイン語で静かな落ち着いた街)を経由しパワースポットといわれるアン渓谷が迫る岩山がそびえるピスコ・エレキ(渓谷の川筋と水を引いたところにブドウが育ち蒸留水ピスコの産地)の渓谷の両斜面はブドウ棚があるのと続き美しい緑の景色が見せ、その一角にプールつきコテージがあり泳ぎ霊気を受け心を癒すスポットでした。チリは1年で300日も晴天に恵まれるトロ口の天文観測所で見先端の天体望遠鏡で金星、土星の環を見ることができ感激でした。

最後にマニュエルご夫妻、ホテルから稽古場まで送迎していただいた皆様、ホームステイ先の皆様にサンチャゴ滞在中に本当にお世話になりました。とりわけハンパブロフ氏(弁護士)及びご両親には2日間でしたが心温まるもてなしを頂き心よりお礼申し上げます。

東戸塚本部道場 高柳 大悟

チリは、昨年の大雄先生のチリセミナーで私自身初の海外渡航として一度目の訪問をし、その風土の心地よさと白山道場の雰囲気よさに感銘いたしておりましたので、今回はさらに武田師範のチリセミナーというかたちで一度目の訪問ができましたことは大変うれしく思います。今回の訪問は二週間という長いスケジュールでしたが、幸運にも予定上仕事の区切りが位置していたため、思い切った早い段階から休暇取得を希望し、再三上司や同僚に働きかけておりましたので、希望通り全行程参加することができました。この点につきましては、理解いただいた職場の仲間感謝しております。私はこの一年ほとんど仕事にかまけ、あまり稽古に行っておられませんでしたが、今回のチリ訪問はまとまって稽古に打ち込める良い機会となりました。さて、今回のチリセミナーには日本人参加者6名、チリ現地のメンバーに加え、ルネ先生をはじめ諸外国からの参加者も大勢いらっしゃいましたので、大変にぎやかで壮大な催しとなりました。昨年知り合ったチリの方々に加え今回更に大勢の方と知り合いになることができたことを大変うれしく思います。世界各地で地震、噴火、



洪水などの大災害や、政治・経済的に厳しい出来事がある中で、合気道を通して世界中の仲間が集うことができることは大変喜ばしいことであるとあらためて認識いたしました。これも、合気道を創造してくださった大先生や普及に努めてくださった先人の方々、ならびに現在その和を繋ぎ広めてくださっている武田師範や諸先生、諸先輩方のおかげであると深く感謝いたします。

チリでの武田師範のもとでの稽古では、武田師範の教えとチリの広々とした気が相まって、自身の中における中心と気の意識、空間を広くとらえるということ、そして一体となって動くということをより一層強く意識することができました。また、受け身も沢山とることができましたので、とても充実した稽古となりました。また、稽古以外の面では、玲欧馬君と二人で地下鉄を乗り継ぎ、アルマス広場からチリ大学を通ってサンタルシアの丘までを、途中、教会やレストラン、デパートや書店などに立ち寄りながら歩いたことで、普段さほど意識していない、交通、治安、歴史、宗教、教育、物価、料理、出版、表現などについて考える機会が得られました。